

無痛分娩について

加古川中央市民病院

麻酔科 産婦人科

無痛分娩の紹介

- ・2022年10月より当院では無痛分娩を開始します。
- ・硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔を組み合わせ、主に麻酔科医が管理を担当します。
- ・安全に管理できる患者人数には限界があり、当分の間は人数を制限する予定です。
- ・合併症を伴う妊婦さんにも無痛分娩が行えるよう準備を進めていきますが、開始当初は健康な妊婦さんで妊娠経過が順調な方に限定します。

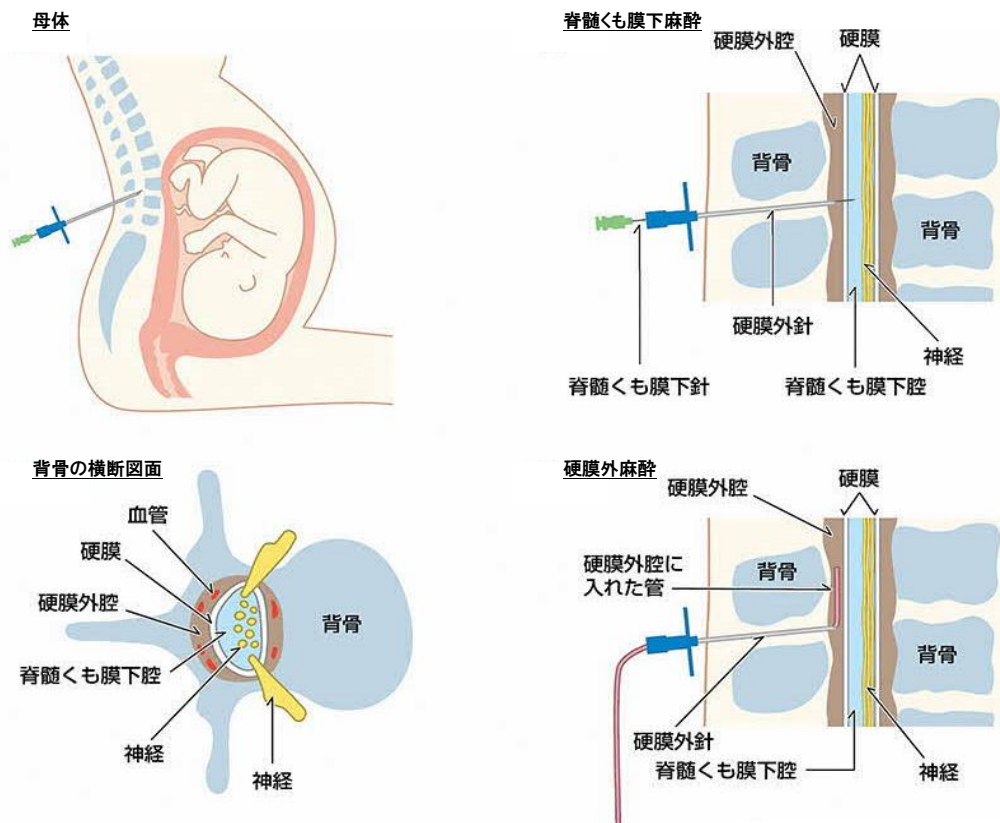
無痛分娩とは？

- ・陣痛が始まってからお産が終わるまで、痛みの場所や程度は変化しながら続きます。人によって違いますが、とても強い痛みのため妊婦さんは消耗し、恐怖心すら残る場合があります。
- ・無痛分娩ではこの痛みを和らげます。全く痛みを感じないわけではありませんが、耐え難い痛みを楽にすることができます。
- ・子宮の収縮に合わせていきむ力を残し、ご自身の力で出産できるよう様々な方法で助けます。
- ・無痛分娩をしても、何も感じないままお産が終わってしまうわけではありません。

無痛分娩Q&A

Q1 どんな方法で行いますか？

- ・硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔を組み合わせで行います。
- ・硬膜外麻酔では、硬膜外腔という場所に細くて柔らかい管を入れ、管から薬を注入します。
- ・脊髄くも膜下麻酔では、ごく細い針を硬膜で包まれた脊髄くも膜下腔に刺し、薬を注入します。
- ・注入された薬が背骨の中の神経をブロックし、鎮痛効果が表れます。



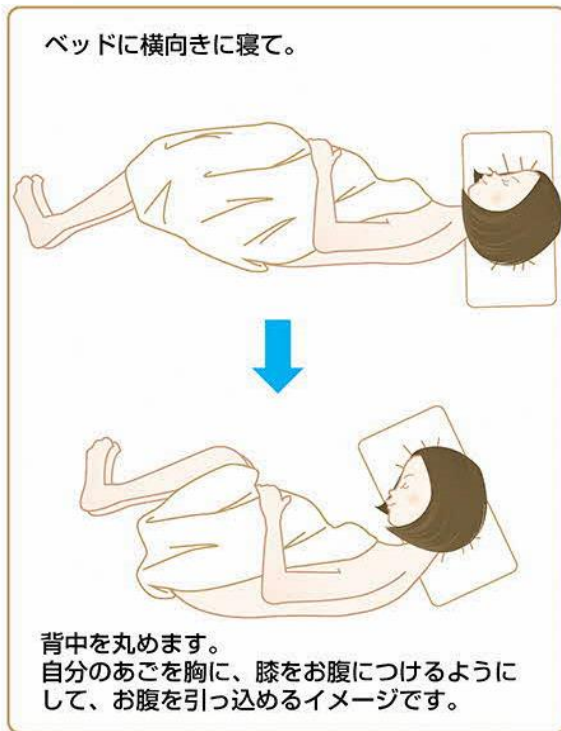
Q2 いつごろ始めますか？

- 妊婦さんの希望と産科医の診察により開始時期を決めます。
- 子宮口が3～5cm 開いたところが多いです。

Q3 どのような処置ですか？

- ベッドに横向きになり、または座っていただき背中から注射をします。
- 皮膚の痛みどめをする時にチクッとした痛みはあります。
- 処置の間は動かないようにしてください。
- 管を固定した後は背中を下にして寝ても、体を動かしてもかまいません。

横向きに寝て背中から麻酔をする時の姿勢



座って背中から麻酔をする時の姿勢



©日本産科麻酔学会(一部改変)

Q4 硬膜外麻酔をしている間はどんな様子ですか？

- 器械を使って薬を注入します。
- 痛みが和らぎますが、足がしびれたり、力が入りにくくなります。排尿の感覚も鈍くなります。
- 硬膜外麻酔をしている間は、ベッドの上で過ごしていただき、排尿は管を通して出します。
- 飲食は制限されます。
- 人により発熱することがあります。

Q5 どれくらいの効果が期待できますか？

- 全く陣痛が分からなくなるわけではありません。
- 子宮が収縮する感覚がわかる方が、お産がスムーズに進みます。
- 突発的な痛みには、妊婦さん自身で鎮痛剤を投与できるような器械を使います。
- ご自分の判断で薬を調整できます。
- 場合によっては効果が不十分だったり、体の左右半分しか効果が出ないことがあります。担当医が確認しますのでお知らせください。
- 硬膜外腔の管を入れ直す場合もあります。

Q6 お産に影響がありますか？

分娩時間に関して

- ・分娩Ⅱ期（子宮口全開大から娩出まで）は少し長くなります。

器械分娩について

- ・鉗子分娩や吸引分娩は多くなることがわかっています。
- ・分娩Ⅱ期が極端に長い場合や、赤ちゃんの進み方に問題がある場合などに器械分娩を行います。

帝王切開が増える？

- ・どんな分娩も途中で帝王切開に変更になる可能性はあります。
- ・硬膜外麻酔を受けた妊婦さんが帝王切開になる率が高いという明らかな調査結果はありません。
- ・施設により帝王切開となる基準も違っており、帝王切開が増えるかどうかは一概に言えません。

促進剤は？

- ・お産をスムーズに進めるために分娩促進剤を使うことがあります。
- ・硬膜外麻酔ではいきむ力が弱まる傾向があり、促進剤が必要となる場合が多くなります。
- ・また、計画分娩の場合は分娩促進剤や頸管処置が必要となります。

Q7 副作用や合併症について教えてください

よく起こる副作用

1 足の感覚が鈍くなる 力が入りにくくなる

- ・背中中の神経を麻酔することで足の感覚や運動に影響が出ます。

2 低血圧

- ・背中中の神経を麻酔することで血管が拡張して血圧が下がることがあります。
- ・お母さんに吐き気が出たり赤ちゃんも一時的に苦しくなることがあります。
- ・赤ちゃんのモニターだけでなく、お母さんも注意深く監視します。

3 排尿困難

- ・排尿の感覚が麻酔でわからなくなります。
- ・硬膜外麻酔をしている間は、管を使って尿を出します。

4 かゆみ

- ・むずむずしたかゆみが出る場合があります。

5 発熱

- ・硬膜外鎮痛を受けている妊婦さんでは体温が高くなる場合があります。
- ・母体の感染症と判断に迷う場合は採血検査を行うかもしれません。

まれに起こる合併症

6 硬膜穿刺後頭痛

- ・硬膜を傷つけたあと、脳脊髄液が漏れることにより頭痛がおこることがあります。
- ・産後2日までに起こり、体を起こすと強くなり、横になると楽になります。
- ・安静にし、鎮痛薬を飲んで治療をします。
- ・頭痛がひどい場合や長引く場合は「硬膜外血液パッチ」を行うことがあります。

7 局所麻酔薬中毒

- ・血液中の局所麻酔薬の濃度が高くなり、耳鳴りやろれつが回らない、興奮などの症状が出ることがあります。
- ・十分に監視していますが、症状によっては治療薬の投与や人工呼吸などの処置を行います。

8 高位脊髄くも膜下麻酔

- 硬膜外腔に入れた管が途中で脊髄くも膜下に入ってしまうことがあります。
- 麻酔が効きすぎて呼吸ができなくなったり、血圧がさがり、意識がなくなります。
- 十分に監視していますが、発生した場合は人工呼吸などの処置を行います。

9 神経障害 感染 血腫

- 硬膜外腔に入れた管の周りに膿がたまったり血液がたまることがあります。
- 神経が圧迫される時間が長いと、永久的に神経障害（感覚の麻痺や運動障害）が残ることがあります。
- 早期に手術が必要になります。

Q8 赤ちゃんに授乳に影響はありますか？

- 硬膜外無痛分娩では、少量の麻薬と局所麻酔薬を使用します。
- 麻薬の使用量が極端に多いと赤ちゃんの呼吸に影響が出る可能性はありますが、担当医は十分な注意を払っています。
- 硬膜外麻酔を用いて生まれてきた赤ちゃんに様々な研究がされていますが、悪影響はないとされています。
- 硬膜外麻酔に用いる麻薬はごく少量で、母乳を介して赤ちゃんに影響を与えることはほとんどないと考えられます。
- 母乳育児がうまくいくかどうかは多くの要素がかかわっていますが、硬膜外無痛分娩が悪影響をおよぼすという調査はありません。

Q9 無痛分娩を希望する場合、どのように決まりますか？

- 現在は妊娠経過の順調な経産婦さんのみを対象としています。
- 助産師外来で案内し、希望がある場合は麻酔科医師の説明を聞いていただき決定します。
- 当分の間は人数を制限するため、希望されても対象とできない場合があります。安全に無痛分娩を行うための措置です。ご理解ください。

Q10 費用について

- 通常の出産費用に加えて「無痛分娩料」を請求させていただきます。
- 経産婦の方、初産婦の方、麻酔を開始する時刻により費用が異なります。
- 金額は以下の通りとなります。

	麻酔開始時刻		
	時間内※	時間外※	休日・深夜※
経産婦	100,000	110,000	120,000
初産婦	150,000	160,000	170,000

※時間内（8：00～18：00）、時間外（6：00～8：00、18：00～22：00）
深夜（22：00～6：00）

参考

以下の Web サイトでは、一般の方向けに無痛分娩について詳しく説明されています。

• 日本産科麻酔学会 JSOAP
<https://www.jsoap.com>

• 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会 JALA
<https://www.jalasite.org>